

(21)

現天守閣の建築的特徴

## 現天守閣の建築的特徴

外観はほぼ史実に忠実に、SRC造、内部は近代的な様式

石垣には荷重をかけずに、石垣内部の地階部分の基礎から立ち上がる柱からの斜材により、跳ね出したスラブを支える「やじろべい」の様な特徴的な構造

### 【外観】

外観は実測図その他に基づいて再建

昔の姿と異なる点

- ・不明門枘形内に、天守1階から降りる張出式避難階段（平成9年に撤去、エレベーター棟設置）
- ・小天守1階から西側石垣上の土居に降りる非常口を新しく設けた
- ・観光が目的で見晴らしがきくよう、展望階の窓を昔の2倍の広さとした

### 【構造】

石垣は空襲の火災による劣化や孕みだしのため、上部構造の荷重をかけない構造  
石垣内部の基礎にて大天守8500ton、小天守2000tonの重量を支える

#### <基礎>

- ・小天守基礎は地下水位まで達せしめるオープンケーソン（開気潜函）
- ・大天守基礎は砂礫層まで到達させるために、ニューマチックケーソン（圧気潜函）

#### <上部構造>

- ・大天守は4階床から斜に1階床外端まで斜材が通り、引張力のかかる吊柱となつて、石垣には重量をかけない構造
- ・小天守は上部建物の鉄骨は全溶接のプレート構造、軽量コンクリート使用
- ・非充腹型鉄骨鉄筋コンクリート造